

複雑部分発作の社会的側面

弘前大学医学部神経精神科 橋本 和明



●はじめに

てんかん発作には、いろいろなタイプがありますが、現在用いられている国際発作型分類の中では、精神運動発作という用語は使用されていません。しかし、ほぼ同義の用語として複雑部分発作という発作型があります。この発作は、国際てんかん分類の側頭葉てんかんとされるものに多くみられます。

さて、これまで私たちの教室では、てんかんをもつ人たちの社会的状況、すなわち、結婚、職業、運転を中心に調査・研究を行ってきました。昨年、弘前において第二十七回日本てんかん学会が開催され、シンポジウムのテーマとして「側頭葉てんかん」が取り上げられました。その中で、私は「社会医学的側面からみた側頭葉てんかん」と題して、お話しさせていただきました。前述したように、複雑部分発作は、側頭葉てんかんに多くみられるものであり、先の調査においても、側頭葉てんかんの九割が複雑部分発作を有していました。そこで、本章では、

この調査結果を中心として述べることによって、精神運動発作に換えさせていただきたいと思えます。さらに、外国での文献を参考にしながら、犯罪との関係についても触れたいと思います。

●結婚について

てんかんをもつ人たちにとって結婚が問題となる理由は、いくつかありますが、発作を有する慢性の病気であるということが、その中の一つに挙げられるでしょう。そこで、本当に発作が結婚の障害になるのかどうかを検討してみましよう。私たちの調査によると、側頭葉てんかんが他のてんかんに比べて、未婚者が多いということはありませんでした。むしろ、興味あることに、結婚の時点で発作が抑制されていたものは、他のてんかんよりも少ない、つまり、発作を有しながら結婚に至ったものが多いという特徴がみられました。さらに、側頭葉てんかんでは、病気の発症前に結婚しているものが多いという結果が得られました。一方、離婚している人についてみると、離婚の理由として、

発作を直接原因として挙げる人は少なく、結婚後に発症した人においても、それが理由で離婚した人はいませんでした。また、現在の発作頻度と結婚状況との関連について調べてみましたが、発作の多い人と少ない人との間で、結婚歴について差は認められませんでした。このようなことから、発作を有しているからといって、結婚に対して消極的になる必要はなく、お互いの理解を持つことによって、結婚生活を送りながら病気の治療をしようと考えてのがよいと思います。

●職業について

就労の状況については、結婚とは、やや異なった結果が得られました。現在の発作頻度と就労状況との関連についてみると、発作の少ない人の方が、職についているものが多いという結果でした。結婚生活のように家族という限られた集団の中では、病気にに対する理解が得られやすいでしょう。しかし、てんかん学が進歩しているとはいえ、わが国では、一般の人々におけるてんかんへの理解は、まだまだ十分なものとはいえず、職場で発作をおこすことは、患者さんにとっては不利益をもたらす可能性があるでしょう。私たちの調査においても、側頭葉てんかんをもつ患者さんの中で、職場で発作をおこ

すことによって、自主的に退職したり、解雇されたという例がみられました。ご存じのように、てんかんは職業に関して法的に制限されているものがあり、これは、仕事に発作をおこすことによる危険にその根拠が求められると考えられます。以前、私たちは、制限されている職についている人について調査したところ、複雑部分発作を有する人が数人みられましたが、職場で発作をおこしたことによって危険に至ったということはありませんでした。

以上のように、職業と発作との間には関連性が認められましたが、適当な職を選択することによって、さらには、今後の啓蒙活動によって、不利益を少なくしていけるだろうと思います。

●運転について

てんかんをもつ人は、運転免許を取ることを法律で禁止されていますが、実際には、免許を持ち、運転している人が少なからずみられます。運転中に意識消失発作をおこせば、運転操作が不能になり、自分自身だけではなく、他者をも巻き込んだ事故に至る可能性があるわけですから、発作が抑制されていない人が運転することは避けなければなりません。最近の調査では、発作によって直接引き起こされる事故は予想以上に少ないといわれています。しかし、こうし

た報告の中でも一致しているのは、複雑部分発作をもつ人において、事故が最も多く認められるということです。これは、この発作が意識障害を伴うということからもうなずける結果であり、十分に留意しなければならぬことだと思います。諸外国では、一定の制限の下に免許取得が許可されており、わが国でもてんかん学会が中心となって、その運動を進めていますので、今後、現状に即した法的改正がされることを期待したいと思っています。

●犯罪について

最近、東京都の都議が買い物中に発作をおこし、万引きと間違えられるという事件がありました。外国の文献にも、発作後のもうろう状態や複雑部分発作の自動症の最中に、万引きのような些細な犯罪行為がみられることがあると記載されています。

ところで、てんかんと犯罪に関してよく取り上げられるのは暴力の問題です。十九世紀には、てんかんと暴力は関連があるといわれていましたが、近年の研究では、発作症状による直接的な暴力は稀であることが示されています。それは、どのような時に暴力行為がみられるのでしょうか。大部分の暴力行為は、複雑部分発作や大発作からの意識の回復時にみられるといわ

れています。というのは、このような発作からの回復時には、発作の前に自分がしていたことや自分のいる場所・時間を確認しようとしており、この時にその行動を他者から妨げられると、自己を守るための攻撃行為が生じるとみなされています。ですから、周りにいる人たちは、患者さんが発作後の意識回復期にある時には、その行動を邪魔しないようにすると、暴力行為の発生を防ぐことができるでしょう。以上が発作と関連した暴力ですが、発作間歇期の暴力についての研究もなされており、これによると発作型との間には特別な関係は認められないといわれています。

つまり、てんかん発作と暴力との間には、直接的な関連性はほとんどなく、予防しうるものであるということです。しかし、万引きのような犯罪行為と間違えられることはあるわけですから、患者および家族の方は、医師に説明を受けたら、疑問な点は質問し、発作症状をよく理解しておくことが大切でしょう。

